人口問題研究（J. of Population Problems）61－1（2005. 3）pp. 94～95

研究活動報告

特別講演会（1月7日，Prof. Doo-Sub KIM）

2005年1月7日（金）午後3時～5時に当研究所で，韓国漢陽大学（Hanyang University）社会学科の金斗燮（Doo-Sub KIM）教授が“Theoretical Explanations of Rapid Fertility Decline in Korea”（「韓国における少子化の理論的考察」）と題された特別講演を行い，韓国人口専門家の鈴木透室長が討論者を務めた．金教授は韓国を代表する人口社会学者で韓国統計庁の顧問も務めており，同庁発行の編著 *The Population of Korea*（KNSO, 2004）と題されたセンサス・モノグラフでは総論“Population Growth and Transition”を執筆した．また，金教授は韓国の人口のみならず，北朝鮮，中国朝鮮族，在外韓国人の人口に関する研究も行っている．韓国の少子化が注目を集めていることもあり，大学等の正月休み中にもかかわらず盛況で，活発な議論が行われた．

今回の特別講演は平成14～16年度厚生労働科学研究費補助金・政策科学推進研究事業「韓国・台湾・シンガポール等における少子化と少子化対策に関する比較研究」（主任研究者：小島宏）の一環として恩賜財団母子愛育会による推進事業を通じて1月5日（水）～18日（火）に金教授が招聘された機会を捉えて行われた．その間，1月11日（火）にはお茶の水女子大学（COE/F-GENS）で“Sex Ratio at Birth in Korea: Changing Trends and Regional Differentials”と題された講演を行うとともに，1月13（木）日には分担研究者の伊藤正一教授のお世話により関西学院大学経済学部で当研究所講演と同じ題目の講演を行った．なお，特別講演会での報告論文は当研究所のウェッブジャーナル *Japanese Journal of Population*, Vol.3, No.1, 6/2005に掲載される予定で，お茶の水女子大での報告論文はフランス国立人口研究所（INED）発行の *Population*, Vol.59, No.6, 11-12/2004に“Missing Girls in South Korea: Trends, Levels and Regional Variations”と題されて掲載されているので，ご興味のある方は参照されたい．（小島　宏記）

ワークショップ「東アジアにおける少子化と少子化対策」

2005年3月14日（月）午後に当研究所第4・5会議室でワークショップ「東アジアにおける少子化と少子化対策」（Workshop on Low Fertility and Policy Responses in East Asia）が，平成14～16年度厚生労働科学研究費補助金・政策科学推進研究事業「韓国・台湾・シンガポール等における少子化と少子化対策に関する比較研究」（主任研究者：小島宏）の最終成果発表会として，以下のプログラムの通り行われた．

13:30-13:40　「韓国・台湾・シンガポール等における少子化と少子化対策に関する比較研究」の概観」　小島　宏

13:40-14:20　「韓国の出生力はなぜ日本より低いか？」　鈴木　透

14:20-15:00　"Local Government's Population Policy to Cope with Low Fertility in South Korea: A Preliminary Status Report"
（「韓国における地方自治体の少子化対策：調査結果速報」）